

## 令和元年度第2回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	令和元年11月8日（金）14時00分～16時15分	場所	議会棟第三委員会室
出席者	委員出席者 5名 [副委員長]大野 直道 [委員]川上 いづみ、笹井 万里恵、高橋 義和、藤本 健太郎(五十音順) ※ 欠席者2名 [委員長]武藤 博己、[委員]古本 賢隆		
	事務局	(企画政策課) 和田課長、齊藤主査、内藤主査補	
	事業担当課	(企画政策部) 岩井部長、(危機管理室) 柴田副主幹 (産業振興課) 鈴木課長、荒木副主幹、利光副主幹 (文化課) 鈴木課長、松田主査 (住宅課) 齋藤課長、菊間副主幹(都市計画課兼務) (都市計画課) 平野副主幹	
	その他	傍聴0名	
議 題	まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について（評価対象6施策（7指標）） （施策名：災害に備えた体制整備・支援） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 防災行政無線設置数【危機管理室】</li> <li>・ 自主防災組織の団体数【危機管理室】</li> </ul> （施策名：企業誘致の推進） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工業団地等において新規に誘致した企業数【産業振興課】</li> </ul> （施策名：観光客誘致のための取組の実施） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント来場者満足度【産業振興課】</li> </ul> （施策名：歴史文化遺産を活かした来訪者の増加） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 旧堀田邸、武家屋敷、佐倉順天堂記念館の年間合計入館者数【文化課】</li> </ul> （施策名：転入促進や転出抑制につながる住宅施策の実施） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 空き家バンクの累計登録数【住宅課】</li> </ul> （施策名：良好な景観の地域づくりの推進） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民の景観団体への技術的支援【都市計画課】</li> </ul>		
概 要	◆ 6施策（7指標）について、市担当部署から指標の達成状況、要因・評価、改善策について説明があった後、委員と市担当部署との間で質疑・意見交換が行われた。その後、委員による市の取組や、市の内部評価に対する評価・検討を行った。 ◆ 委員による評価・検証については、概ね、市による取組及び内部評価は妥当との意見であったが、当日は武藤委員長が欠席であったため、次回会議において武藤委員長のもとで再確認することとなった。		
内 容			
武藤委員長が病欠であったため、佐倉市行政評価懇話会設置要綱第5条3項の規定により、大野副委員長によって議事が進行された。また、同要綱第6条第2項の規定（委員の二分の一以上の出席がなければ会議を開くことができない）に基づき、委員7名のうち5名の出席があったことから会議開催の定数を満たした。			
【市担当部署からの説明、委員との質疑・意見交換】 <施策名：災害に備えた体制整備・支援>防災行政無線設置数、自主防災組織の団体数（危機管理室）（資料1を説明）先般の台風第15号、19号、その後の豪雨により市民の防災意識が高まっている。 （委員）自主防災組織とは、防犯ボランティア団体の方々による自主防犯活動や防犯パトロールを実施する組織とは異なるのか。			

(危機管理室) それとは異なるが、構成員が重複している場合がある。

(委員) 自主防災組織については自治会のメンバーと重複している場合もある。

(委員) 自治会はどれくらいあるのか。

(危機管理室) 自治会は 255 団体ある。自主防災組織については、自治会単位で組織しているところもあれば、広域で組織しているところもある。

(委員) 自主防災組織については担い手の確保が極めて難しい。

(委員) 地域の防災については日常的な近所付き合いや活動を重視すべき。隣同士、声をかけるだけで助かる場合もある。平成 30 年度時点で自主防災組織が 113 団体というのは少ないと考える。

(危機管理室) 自主防災組織として組織化していなくても、自治会等で実質的に同様の活動をしているところもある。

市では自主防災組織の活動に対し支援している。防災関係備品の購入や活動支援等の支援内容については周知もしている。

(委員) 防災行政無線の設置箇所が令和元年度中には 155 箇所となる見込みとのことだが、市内全域をカバーするようになるのか。

(危機管理室) 地形条件や周辺建築物等により聴取困難な場合もあるが、理論上はほぼ市内全域をカバーできる。今回の災害で、停電時における防災行政無線のバッテリー維持時間や多様な情報発信、伝達手段の確保などいろいろと課題が見えた。

(委員) 市民のためにも今回の災害を教訓にして次に活かしてほしい。

<施策名：企業誘致の推進>工業団地等において新規に誘致した企業数

(産業振興課) (資料 1 を説明)

(委員) 令和元年度に指標の達成が見込まれるため、取組は妥当と考える。

(委員) 新規の市街化区域の拡大についてはどのように考えるか。住居系市街化区域の拡大は難しいようだが、産業振興だけを捉えた市街化区域への編入は厳しいのか。

(都市計画課) 市街化区域への編入の決定権は県にある。人口が増えていく時代ではないので、市街化を拡大するという方向にはない。具体的な事業計画がないと、産業用地を確保したいからといった理由だけでの市街化区域への編入は難しい。

(委員) 一定の要件・手続きにより市街化調整区域内で工場を建設可能とはなっているが、市街化区域の中に産業用地がある方が税などを含めると市にメリットはあるだろうと考える。

(委員) 産業用地が飽和状態である中、取組が進められていることは評価したい。

(委員) 企業誘致の捉え方が時代によって変わってきている。佐倉市にも前回の懇話会で審議した事業地として登録できるシェアオフィスやコワーキングスペースといった場所が出てきている。企業誘致という言葉の捉え方を変えていく必要があるのではないか。いずれにしても、令和元年度に立地可能候補地を見出し、2 社誘致見込みであるのはすごいこと。

(委員) 多くの自治体が企業立地を推進している中で、既存立地企業が佐倉市から移転していかないような施策も重要になってくる。

(委員) 企業が 1 次、2 次、3 次産業の枠を超えて活動しており、また、個人やネットの中のみで活動する企業等、企業活動が多様化しており、企業誘致という枠の捉え方を検討していく必要もあるのではないか。

(委員) 今後、2 社の誘致が見込めるということで、難しい状況の中で積極的な取組が行われていると考える。

<施策名：観光客誘致のための取組みの実施>イベント来場者満足度

(産業振興課) (資料 1 を説明)

(委員) 花卉類を中心にしたイベントは、魅力的であり多くの観光客を引き付けるものがある。

(委員) 花だけでなく、そこに何かを加えてもう少し観光客を引き寄せることが必要ではないか。

(委員) その辺りが今後の大きな研究課題ではないか。

(産業振興課) 今後は、周辺施設と連携して、エリアとして魅力ある観光地を目指していきたい。

(委員) 佐倉市のイベントはかなり認知度が高い。ひよどり坂が旅情報サイト「LINE トラベル jp」による「旅人大賞 Trend Spot Award 2018」の特別賞を受賞するなど、新しい魅力も加わっている。

(委員) 花は時期が重要。今の WEB カメラはそれほど高くないので、リアルタイムで花の開花の状況を情報発信できるようにすればいいのではないかと。多くのイベントで既に組み込まれている。

(委員) 千葉県により、県民の投票による『次世代に残したいと思う「ちば文化資産」』が選定された。佐倉市からは、佐倉城跡・城下町と”江戸”時代まつり、佐倉チューリップフェスタ、佐倉の秋祭り、千葉県立佐倉高等学校記念館、DIC 川村記念美術館、武術立身流、印旛沼と周辺の里山景観が選定されている。その他にも様々な取組みが行われているが、上手く情報が発信されていないのではないかと。

(委員) 個別のイベントだけでアピールするのではなく、総合的にアピールすべき。

(委員) 来場者アンケートによる満足度を指標とすることは、定点観測ではないことから視点が定まらずに、必ずしも確実な評価とは言えない面がある。そのような手法でも、例年ほぼ高い評価を得ており、イベントの水準が保たれている。その努力は評価されるものと思う。

<施策名：歴史文化遺産を活かした来訪者の増加> 旧堀田邸、武家屋敷、佐倉順天堂記念館の年間合計入館者数

(文化課) (資料 1 の説明) 今後は若年層やロケ地をめぐる方の入館者数の増加に努めたい。

(委員) 旧堀田邸、武家屋敷、佐倉順天堂記念館の 3 施設だけで入館者数を増加させることは難しい。国立歴史民俗博物館の入館者数も過去と比較すると減っており、新しい企画を実施しても入館者増は難しいと聞く。そのような中で、入館者数の初期値を維持するだけでも大変な努力だと考える。

(委員) アニメの聖地化であれば、特にイベントを実施しなくても観光客が来るらしい。

(委員) それら 3 つの施設は市民がイベントを実施するときに活用できるのか。

(文化課) 文化財であるので自由度は制限される。

(委員) 佐倉順天堂記念館については、隣が病院であり、イベント開催に理解が得られるかといった懸念もある。旧堀田邸も、施設への導入路が介護付き高齢者住宅・病院と共通であり、集客力が高まると別の問題も生じる可能性もあるのではないかと。

(文化課) 3 箇所とも駐車スペースが限られ大きなイベントは難しいかもしれない。

(文化課) 3 箇所の位置は離れており回遊性に課題がある。点と点を結ぶ取組が必要だと考えている。

(委員) 取組状況を見るとかなりの数のイベントが実施されており、これほど様々なイベントが実施されている文化財もないのではないかと。目標には達していないが、指標の捉え方も工夫が必要ではないかと。

(委員) 指標の設定にも工夫が必要。入館者を増やすことで病院などの利用者とトラブルになる可能性もある。そのような中、文化財の本来の役割を踏まえると入館者数の実績は評価できると考える。有名な現代小説家の作品に佐倉市のことが取り上げられている。看板等を設置するなどにより聖地化できないだろうか。また、佐倉市は映画やドラマを撮影する方々にとっては、日帰りできるので魅力的と聞く。撮影需要の掘り起こしは重要課題。

(委員) せっかく多くのロケが行われているのだから、撮影現場に作品に関する表示のようなものを設置して、作品を観光資源として活用していくような試みも検討してはどうか。

(委員) 観光施設については一度来たら、再度訪問しようとはなかなかならない。入館者を増やすよりも、施設の重要性を高めたり残したりする方が良いのではないかと。

(委員) 交流人口の増加や、観光政策は、オール佐倉でやらないとならない。

(産業振興課) 武家屋敷通りに「侍の杜」という施設があり、今年 10 月と 11 月に、パスタなどを食べることができるキッチンカーを入れた。予想以上の売り上げがあったと聞く。このように民間の力を活用して佐倉市を盛り上げていきたい。

(委員) 外国人にどのようにアピールするか。

(産業振興課) 外国人向けの日帰り観光を紹介するサイトに登録している。最近では、英語版のチラシなどをスカイツリーで配布した。

(委員) 回遊性を高めて外国人に来てもらう必要もある。それには1施設だけの取組では限界。市内の各施設による総合的な戦略が必要。

<施策名：転入促進や転出抑制につながる住宅施策の実施>空き家バンクの累計登録数

(住宅課) (資料1の説明) 空き家の周知にあたっては住まいの相談会なども開催しているところ。月2回、週末に実施している空き家案内を有効活用して、マッチングにつなげたい。

(委員) 空き家の傾向はどのようになっているのか。

(住宅課) 市内の空き家率については、平成25年は9.2% (空き家数6,810戸/住宅総数74,320戸) であったが、平成30年は9.4% (空き家数7,090戸/住宅総数75,840戸) と若干増加した。

(委員) 佐倉市の人口は県内10位であり、各自治体が同じような空き家問題も抱えている中で、県内における空き家バンクの契約可能な物件登録数1位というのはすごい努力の賜物。

(委員) 空き家バンクに登録するメリットはあるのか。

(住宅課) 空き家バンクを通じた契約が成立した場合の奨励金などがある。

(住宅課) 不動産事業者が扱い難い、一般的には条件の良くない空き家についても登録して紹介している。

(委員) 住まい方、家に対する概念が多様化している。すごい努力が注がれていると思うが、今後も頑張してほしい。バンク登録数ナンバー1はすごいこと。

(住宅課) 自治会等の会合に職員が出向いて、相続関係が複雑になる前に手を打つ必要があることを伝えている。相続関係が複雑になった空き家を利活用するのは困難。相続関係が複雑になる前に、事前に対応することを心掛けている。

(委員) 空き家はまちの安心・安全にも関わる。犯罪や火災などの元ともなる。都市政策として空き家対策を捉える必要があり、この施策はとても重要だ。

(委員) 相続関係が複雑にならないよう取り組んでいるのはよいと考える。これだけの登録件数は素晴らしいと考える。

(委員) 相続関係が複雑になって利用できなくなる前に、手を打ってほしい。

(委員) 特に問題のない物件は民間で対応するだろう。民間では手を打てないような物件にどう対応するかが課題ではないか。

<施策名：良好な景観の地域づくりの推進>市民の景観団体への技術的支援

(都市計画課) (資料1を説明) 平成29年度に佐倉市景観計画を策定した。今年度、染井野地区では、景観法に基づき市内で初めて景観協定を定めた。

(委員) 市民の景観団体への技術的支援として、平成30年度には累計5団体、令和元年度には累計6団体となる見込みであるとのことだが、それぞれ別の団体を支援しているのか。

(都市計画課) 累計の団体数については、全て新町地区景観形成協議会のことである。累計6回の技術支援をしたということ。

(委員) このような指標の実績の示し方だと、景観形成協議会が増えているように捉えられる。累計の示し方が分かり難い。この場合には団体数の累計ではなく、技術支援回数の累計とすべき。

(企画政策課) 指標の表現方法については今後工夫したい。

(委員) 新町についてどのようにして景観を形成していくのか。

(都市計画課) 新町地区については景観形成重点区域であり、通常の景観形成基準より色彩などの基準が厳しい。新町地区景観形成協議会は今年度、2回開催している。町内会、商店会の方々が構成員。新町の取組をモデルとし他に広げていければと考えている。新町地区景観形成協議会の中では城下町を意識した意見が多い。

(都市計画課) 佐倉図書館の建て替えについても資産管理経営室から説明し、意見を伺ったりしている。

(委員) 個人住宅の景観形成活動にどこまで支援するか。支援している自治体もある。

(委員) 新町は城下町佐倉をPRする際にはかかせない。個人の生活にも関わるので、どこまで基準を

徹底できるか。

(委員) ファサード(建物の正面)のイメージはあるのか。

(都市計画課) 新町地区景観形成協議会では、何を重視して景観を整備していこうか協議していただいているところ。

(委員) それほど歴史的な建物が残っていないのに今後は歴史を売りにしていこうというところでは、建物を立て直すときの基準を設けているところがあると聞く。早急な成果を求められる時代ではあるが、長い目で見るとそのような基準の設定も有り得るのではないかと考える。

(委員) 新たな図書館は城下町をイメージしているのか。

(都市計画課) 資産管理経営室と景観アドバイザーで定期的に意見交換を行っている。要所で城下町らしさが出れば良いのではないかといった意見がある。

(都市計画課) 平成30年度の「さくらの景観まちづくり賞」では4つの建物・活動(※)を表彰させていただいた。今後も景観の啓発につながる取組について継続して行っていきたいと考える。

※ ①四季を彩る花々と歴史を今に残す「うすい花の八ヶ寺花めぐり」

②幕末創業 商家の面影を残す「寺子屋 吉田書店」

③城下町の風情を醸成する町家食と文化が集う「茶琴神明 時代カフェ&文化芸術スペース」

④宿場町の面影を残す酒蔵「旭鶴」

[市担当部署退室、5分休憩]

#### 【委員による評価・検証】

<施策名：災害に備えた体制整備・支援>防災行政無線設置数、自主防災組織の団体数

(委員) 防災無線の設置数については、取組状況は良好と考えるが、危機や災害に対応した多様な情報発信について検討して欲しい。また、災害を教訓として、災害に備えるために何をなすべきか十分な検証を行ってほしい。

(委員) 自主防災組織の団体数については、一気に向上させるのは難しい。自主防災組織とはどのような活動をする組織なのかを分かりやすく周知しないと団体数の増加は望めない。今年は災害が重なったことから、自主防災組織の必要性が地域で高まっているのではないかと考える。

<施策名：企業誘致の推進>工業団地等において新規に誘致した企業数

(委員) 産業振興を捉えた市街化区域の設定は検討できないのだろうか。一定の要件・手続きにより市街化調整区域内で企業立地が可能となっているが、市街化区域であることにより、税などを含め市にメリットはあると考える。

(委員) 企業誘致の捉え方が時代によって変わってきている。佐倉市でも、事業地として登録できるシェアオフィスやコワーキングスペースといった場所を整備し、当該場所を法人登記することも可能としている。企業誘致という言葉の捉え方を変えていく必要があるのではないかと考える。

(委員) 多くの自治体が企業立地を推進している中で、既存立地企業が佐倉市から移転していかないような施策も重要になってくる。

(委員) 企業が1次、2次、3次産業の枠を超えて活動しており、また、個人やネットの中のみで活動する企業等、企業活動が多様化しており、企業誘致という枠の捉え方を検討していく必要もあるのではないかと考える。

<施策名：観光客誘致のための取組みの実施>イベント来場者満足度

(委員) 目標に届いてはいないが、今後とも同様の取組を継続して行ってほしい。

(委員) 来場者アンケートによる満足度を指標とすることは、定点観測ではないことから視点が定まらずに、必ずしも確実な評価とは言えない面がある。そのような手法でも、例年ほぼ高い評価を得ており、イベントの水準が保たれている。その努力は評価されるものと思う。

(委員) イベントの来場者だけをカウントするのではなく、常日頃佐倉市に来る人をカウントできれば

と考える。

(委員) 難しいとは思いますが、リピート客数をカウントできれば、魅力に着目した分析も可能になるのではないかと。

<施策名：歴史文化遺産を活かした来訪者の増加>旧堀田邸、武家屋敷、佐倉順天堂記念館の年間合計入館者数

(委員) 目標には達していないが、施設の立地条件や文化財としての制約を考えると、評価されて良い達成状況ではないか。

(委員) 一定の入館者が確保できているが多様な行事の積み重ねの結果でもあると思う。ただ、入館者増ということに捕らわれずに、文化財としての充実を忘れてはならないと思う。

(委員) 観るだけでなく、「体験」「学び」「食」など何かしらプラスできる要素があれば入館者が増えるのではないかと。

<施策名：転入促進や転出抑制につながる住宅施策の実施>空き家バンクの累計登録数

(委員) 空き家バンクの累計登録数が令和元年10月末時点で累計107件。目標値には達していないが、相続など複雑な問題があり空き家となっていることが多く、登録数をあまり悲観的に捉えなくてよいのではないかと。

(委員) 空き家は難しい課題。

(委員) 佐倉市の空き家バンクはマッチング率が高い。県内でここまで頑張っているところはない。

(委員) 佐倉市の人口は県内10位であり、各自治体が同じような空き家問題も抱えている中で、県内における空き家バンクの契約可能な物件登録数1位というのはすごい努力の賜物。

<施策名：良好な景観の地域づくりの推進>市民の景観団体への技術的支援

(委員) 累計の表現の仕方、見せ方が分かり難い。技術支援した団体数の累計ではなく、技術支援回数に累計にする方がよい。

(委員) 良好な景観形成に向けて頑張ってほしい。

<全体を通して>

(副委員長) 本日委員の皆様にご議論いただいた、市の取組や内部評価に対する評価については、全体的に妥当と考えるとの意見であったが、次回の会議において、武藤委員長のもとで再確認したい。

(以上)